記　事

演　習　林　記　事

昭和43年度

目　　次

はしがき …… 29
Ⅰ　人　　事 …… 29
Ⅱ　管　　理 …… 30
Ⅲ　予算および決算 …… 30
Ⅳ　経　　営 …… 32
Ⅴ　試験・研究 …… 33
Ⅵ　職員研修 …… 33
Ⅶ　演習林協議会 …… 33
Ⅷ　全国大学演習林協議会 …… 34
Ⅸ　学生実習 …… 34
Ⅹ　防火対策 …… 34
Ⅺ　学部構内樹木の管理 …… 34
おわりに …… 34

はしがき

「演習林報告」第7号を世に送るに当たり，これまでの方針に従って，この「記事」を誌るす。「演習林記事」を登載する当演習林報告は，いまや，他に類例を見ない存在となった感が深い。「記事」は，いささか詳細に過ぎはしないか，との批判を耳にしないでもないが，掲載の趣旨に徴すれば，かならずしも当たらないと考える。

昭和43年度は，後にも記すように，高瀬助教授および大西助手という，ベテランの定年退官の年でもあり，それなりに苦労の多かった1年間であった。言うならば，当演習林にとって，一つのエポックを画した年度であった。以下，この1年間の歩みについて述べよう。

Ⅰ　人　　事

前林長・中島幸雄教授の任期満了に伴い，昭和43年4月1日付をもって山畑教授（森林計画学）が新林長に就任した。山畑教授は4年ぶり2度目の演習林長併任である。

高瀬五郎助教授および大西誠一助手は，昭和44年3月31日，「愛媛大学教員定年規程」に基づき退官した。また両氏の退官に先だって，渡部桂助手をして演習林次長・研究主任・経営主任の業務を修得させるべく，次のような異例の人事が行なわれた。

6月6日付　高瀬助教授は米野々演習林管理事務所長に併任，渡部助手は所長を解かれ本部勤務となる。
7月6日付　高瀬助教授は所長を免ぜられ，大西助手が所長に併任された。
8月6日付　大西助手は所長を解かれ，渡部助手が所長に復帰した。
10月6日付　高瀬助教授が再び所長に併任され，渡部助手は本部勤務となる。
11月6日付　大西助手，再び所長併任を命ぜられ，高瀬助教授と交代した。
12月6日付　大西助手，旧に復し，渡部助手が所長に任ぜられた。

三好博・村上汎司・山本正男の各技能員は，10月10日付，（行二）のまま文部技官に任ぜられた。

なお，学部の環境整備の進展とともに，キャンパス内樹木の管理に労力を要するため，永井技官をこれに専念さすべく，12月16日付をもって三好博技官を勝山試験地勤務に配置換えした。

また本年度は第3次経営計画編成のための調査年度に当たっていたため，データの整理用務に従事さすべく，次のとおり臨時職員を採用した。

水野禎子　昭和43年7月22日～8月31日
石川祥子　〃　10月1日～12月28日
武村礼子　昭和44年1月16日～3月31日

II 管　　理

1) 農学部新築第3期工事の完成により，昭和43年4月4日，演習林本部は管理棟1階に移転した。床面積は43.92 m² である。

2) 7月27，28両日にわたる台風4号による豪雨は，米野々演習林の内外に多大の災害をもたらした。桧皮田，音田，岩屋小屋の各林道に被害があったが，岩屋小屋林道は激甚で，ほとんど寸断状態となった。「経営内規」46条の規定に基づき，学部長あて災害報告を提出，善後措置を検討したことは言うまでもない。8月23日，地元林道組合は合同総会を開いたが，演習林からは管理事務所長をオブザーバーとして出席せしめた。総会では，岩屋小屋林道を補助事業として復旧し，他は自力によることが確認された。なお演習林内林道については，桧皮田地区3箇所，岩屋小屋地区2箇所に対し，工費837,000円で年度内に復旧工事を終えた（施設課）。

3) 管理事務所の老朽はなはだしく，早期移改築を要するため，参考として損傷箇所のカラー写真を撮影するとともに，新築事務所の第1次設計図を作成，関係方面の検討を願うこととした。

4) 桧皮田地区入口にクリ角材を用いて，「無断立入禁止」，「火気注意」の趣旨を大書した「大学演習林」の標識を設置した。

5) かねて待望されていた管理事務所敷地の擁壁・埋立工事が，工費3,736,000円をもって施工された（施設課）。昭和38年5月，尾上卓二氏より寄付を受けて敷地拡張して以来，まさに5年目にして立派な「宅地」が造成された訳である。

III 予算および決算

演習林経営内規第45条第2項に基づき，演習林協議会の承認を得て，昭和44年7月1日付，農学部長あて「演習林事業報告書」を提出したので，それによって概要を記す。

昭和43年度予算および決算

演習林歳入予算

収入目標額	
基準収入	3,354,000
木材引取税	66,000
計	3,420,000円

歳入決算

素材	13,207本	461.023m³	4,034,100
苗木	34,000本		194,875
木材引取税			79,099
計			4,308,074円

演習林歳出予算（校費）

事業費	4,301,000
前年度調整額（学部内調整）	301,028
庁費（学部内配分）	9,500
教官当積算校費（学部内配分）	286,340
自動車維持費（学内配分）	57,700
設備更新費	198,000
林外林道補修分担金	69,000
元賃金職員振替減	△ 86,700
内部設備費振替	△ 165,877
42年度調整配分	△ 97,000
庭園管理費より返済	7,187
庭園管理費より借入	7,515
計	4,887,693円

（旅費）

事業旅費	260,000
林長会議旅費	80,400
教官研究旅費（学部内配分）	27,111
連絡旅費	12,700
計	380,211円

歳出決算

種目	校費		旅費	計
	労賃	その他		
一般管理（本部）	—	101,945	122,140	224,085
〃（管理事務所）	—	170,019	28,230	198,247
新植	505,830	18,494	4,620	528,944
補植	6,240	1,450	—	7,690
保育	965,630	74,518	1,200	1,041,348
苗畑	305,440	113,574	—	419,014
素材生産	18,720	1,597,582	3,320	1,619,622
土木	79,300	76,184	6,160	161,644
調査	118,830	53,530	8,421	180,781
保護	10,140	24,119	9,410	43,669
学生実習	51,450	195,978	62,080	309,508
試験研究	—	220,322	68,480	288,802
演習林報告	—	174,200	—	174,200
研修	—	4,200	16,150	20,350
計	2,061,580	2,826,113	330,211	5,217,904円
森林計画へ貸	—	—	50,000	50,000
合計	2,061,580	2,826,113	380,211	5,267,904円

庭園管理歳出予算

庭園管理費（学部内配分）	115,000
〃　（演習林へ返済）	△ 7,187
〃　（演習林へ貸）	△ 7,515
樹木移植費（環境整備費）	153,500
〃　（前年度調整額）	9,956
計	263,754円

歳出決算

種目	校費		旅費	計
	労賃	その他		
庭園管理費	36,700	61,196	—	97,895
樹木移植費	69,900	87,911	—	157,811
会計へ貸	—	8,047	—	8,047
計	106,600	157,154	—	263,754円

自動車道新設費（施設課所管）

予算	2,070,547
決算	2,070,547

管理事務所敷地擁壁・埋立工事費（施設課所管）

予算	3,736,000
決算	3,736,000

林道災害復旧費（施設課所管）

予算	837,000
決算	837,000

IV 経　　営

1)　1林班（ほ小班）内において，スギ・モミ・ツガ・広葉樹など，4,595本，432m³ならびに43年度林道開設工事施工にともなう，1林班（に小班）および（と小班）内の支障木，スギほか5樹種502本，58 m³が新建設工業KKによって，伐木・造集材され，素材12,900本，452 m³が得られた。素材は43年11月19日，新建設工業KKに売却した。

2)　1林班（ろ小班）および2林班（に小班）において，スギ162本を間伐，素材307本，9 m³を得た。43年11月19日，松岡木材産業有限会社に売却した。

3)　1林班（ほ小班）内の伐採跡地5.34haに，スギ9,000本，ヒノキ8,000本，アカマツ2,500本，計19,500本を植栽した。また前年度新植地5林班（い小班）内にスギ500本，ヒノキ500本を補植した。

4)　幼齢人工林92.74 haを対象として，下刈・つる切作業を実施した。

5)　前年度に引続き施設課所管により，工費2,070,547円で，幅員3.6 m，延長160 mの林道が竣工，これで桧皮田地区林内自動車道総延長は660 mとなった。

6) 年度を通じて，第3次経営計画編成のための森林調査，ならびに一般調査を行なった。

7) 昭和44年度新規概算要求として，教職員の定員増・林道延長・管理事務所敷地擁壁および埋立・管理事務所新築・大西山林購入・岩屋小屋林道橋梁工事分担金など，2,218万円を計上した。

8) 昭和43年12月17日11時ごろ，1林班（ほ小班）で地ごしらえ作業中，日々雇用職員藤久鶴一氏が誤って左眼を負傷した。梶ケ谷眼科に入院加療したが，同氏の負傷は学長から公務災害の認定を受けた。予期せざる事故とは言いながら，遺憾であった。

V 試験・研究

1) 大学演習林共同研究「スギ品種地域連絡試験」用地として0.23 haを1林班（ほ小班）内に設定し，スギ挿木苗1,100本を購入植栽した。

2) 前号掲載の各試験・研究は，継続して定期的に測定，調査が行なわれた。

3) 高瀬助教授は「本数密度の解析的研究」を，資料として愛大演報6号に発表したほか，「Growth Curve of Sugi Single Tree」と題する論文を，農学部紀要Vol. 13, No. 2に発表した。また演習林次長の名において「林業技術」321号に「わが演習林」を執筆した。

大西助手は数年間にわたる「ワサビ栽培試験経過報告」を演習林長に提出した。

昭和44年3月14日，高瀬助教授は「森林の解析」と題し，農学部ユーカリ会館集会室において，退官記念講演を行なった。

昭和44年3月25日～28日，大阪府立市岡高校生物部生徒若干名，金子寿衛男教諭引率のもとに来林，陸産貝類の採集調査を行なった。

4) 昭和43年12月，演習林報告第6号500部を刊行，内外に配布した。外国では14カ国50大学，その他研究機関に送付したが，現在までに交換文献516点の寄贈があった。

5) 昭和43年の気象観測結果は，別表に示す。

6) 全国大学演習林協議会編集「全国大学演習林，試験林・学術参考林一覧」を，林学科各講座に1部あて寄贈した。

VI 職員研修

1) 昭和43年10月1日，技術職員5名は演習林長指導のもとに，愛媛農業祭（林業試験場・農業試験場）を見学した。

2) 昭和44年2月16日～21日，山畑林長・渡部助手・三好技官は，宮崎県東臼杵郡椎葉村，九大宮崎演習林で行なわれた「スギ品種連絡試験」苗木交換および研究打合せ会に出席，同演習林を視察した。

3) 昭和44年3月16日～20日，永井技官は金子助教授と同行，兵庫県宝塚市・大阪府豊中市服部緑地・京都府立植物園を視察，庭園管理について研修した。

4) 「現代林業」および「林野時報」の両誌を購読することとし，演習林職員の研修に資することとした。

5) 「演習林」17号（東大）別刷「演習林の現状における問題点に関する調査報告」を本部および管理事務所に配布，職員の研修に供した。

VII 演習林協議会

1) 昭和43年6月13日付，石川久雄教授および木下良郎助教授（木材化学・繊維化学講座）に演習林協議会委員を委嘱した。任期は1年である。

2) 昭和43年7月4日，第13回演習林協議会を開催，第2次経営計画の変更に関する件，昭和42年度事業報告に関する件を付議した。また高瀬次長から前回以後の経過について報告した。

昭和43年11月20日，第14回演習林協議会を開催，昭和43年度事業予定に関する件，管理事務所移改築に関する件を付議，続いて演習林長より「演習林報告」の送付先について，林長案を示して諮問した結果，演習林長に一任となった。終わりに，次長から前回以後の経過報告を行なった。

VIII　全国大学演習林協議会

例年のとおり，春秋2回の総会が開催された。出席者等は次のとおりである。

1)　昭和43年4月6日　於名古屋大学農学部会議室

出席者　演習林長　山畑一善，次長　高瀬五郎

2)　昭和43年10月21日～22日　於高知市，高知県森林組合連合会会議室

出席者　演習林長　山畑一善，管理事務所長　渡部桂

承合事項　1.　経営計画編成に基準となるべき明文があるかどうか，ない場合における慣行的手順を教示願いたい。

2.　地方演習林に職員専用住宅があるか，あればその規模および戸数を教示願いたい。

なお第2日目は，桂浜ヘルスセンターにおいて文部省主催「演習林教育研究集会」が開催された。

IX　学　生　実　習

昭和43年度中に実施された演習林実習は下記のとおりである。

実習種別	期間	担当教官	学生
森林計画学	43年7月7日～12日	山畑教授・藤本助教授・山本助手	4回生　24名
森林土木学	〃　7月12日～15日	山田教授・伏見助手	〃　17名
〃	〃　10月22日～24日	同　上	〃　7名
林木測定学	44年3月4日～10日	山畑教授・藤本助教授・山本助手	3回生　24名
造林学	〃　3月10日～13日	中島教授・金子助教授・辻田助手	〃　27名

ほかに，造林学実習のうち，育苗実験実習は，勝山試験地において年間を通じて実施された。

X　防　火　対　策

1)　例年のとおり「演習林消防内規」に基づき「防火巡検計画」を立案，51回にわたり管理事務所・作業所・林内の自主防火巡検を行なった。巡検結果は「防火巡検日誌」に記録されている。

2)　昭和44年3月18日，「職員が巡検中，長井田地区林内で出火を発見した」との想定のもとに，通報・連絡・消火などの訓練を実施した。訓練に当たり，松山市消防本部は，特に消防司令車を現地に派遣されるなど，多大のご協力ご指導を賜わった。

参加者　朝倉消防司令（松山市消防本部消防課長）勝田消防係長　下村消防士　松本松山市消防団副団長ほか3名の地元消防関係者　演習林職員全員。

3)　昭和44年3月22日，湯山消防分団長永井忠教氏ほか4名に事業区内の防火診断を依頼，実施した。

XI　学部構内樹木の管理

学部新築工事の進展に伴って，構内環境整備の仕事は急速に多忙となった。樹木維持管理のための経常費のほか，環境整備費の学内配分も受けて業務を推進した。

昭和43年6月15日，関係者参集して構内除草区分を演習林原案どおり決定した。

年度内移植は53本，伐倒除去木は15本であった。

昭和43年12月4日，午前11時20分ごろ構内東南地区でクスノキ移植作業中，日々雇用職員山本安吉氏が，誤って肋骨骨折（全治3週間）という重傷を負った。学長から公務災害の認定を受けたが，業務中の事故発生が，前記藤久鶴一氏と合わせて，本年度2件となったことは残念である。

お　わ　り　に

昭和43年度は当演習林にとって多難の年であったが，昭和44年度はさらに多事な年度となることが予想され

る。高瀬助教授・大西助手の後任人事を軸とする職員配置の問題，第3次経営計画編成の問題，構内造園計画実施の問題，その他がある。また業務災害防止対策も考えなければならないであろう。さらに，大学紛争の発生と，それが演習林の管理運営におよぼす影響も，考えておく必要がある。林道の延長・米野々事業区に介在する私有林の購入・管理事務所改築など，続けて当局に要望すべき事項も少なくない。林長以下全職員，協力一致して任務に邁進したいと思う。関係各位の一層のご支援を仰ぐ次第である。

昭和43年気象観測結果

気温：度　湿度：%　降水量・蒸発量：mm

種目別	月別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	平均
気温	平均	−1.7 (0.3)	−3.3 (−0.2)	4.3 (3.9)	10.0 (10.7)	13.5 (13.4)	16.9 (14.2)	19.9 (21.3)	21.8 (21.9)	16.9 (17.7)	11.2 (11.8)	7.4 (7.5)	4.4 (2.1)	121.3 (124.6)	10.1 (10.4)
	最高 平均	1.3 (3.2)	0.1 (3.1)	8.9 (8.5)	14.2 (15.2)	18.6 (18.7)	21.8 (21.5)	24.2 (25.7)	25.7 (26.9)	26.0 (23.1)	14.8 (15.7)	11.5 (11.4)	7.4 (5.1)	174.5 (178.1)	14.5 (14.8)
	最高 極	19.0 (19.0)	9.5 (14.0)	16.0 (19.5)	20.0 (25.5)	23.0 (24.5)	25.0 (27.5)	30.0 (30.0)	28.5 (32.0)	24.5 (30.0)	22.0 (23.5)	16.5 (20.0)	14.5 (14.5)		
	最低 平均	−4.7 (−2.7)	−6.5 (−3.1)	−0.2 (−0.5)	5.8 (6.8)	9.1 (8.8)	12.7 (12.7)	16.2 (17.7)	18.7 (18.0)	13.6 (14.1)	8.0 (8.3)	3.9 (3.7)	1.4 (−0.9)	78.0 (82.9)	6.5 (6.9)
	最低 極	−8.5 (−11.0)	−9.5 (−9.5)	−7.0 (−7.0)	−1.5 (−3.0)	6.0 (2.0)	10.5 (6.0)	12.0 (12.0)	14.0 (13.5)	11.0 (5.5)	2.5 (2.5)	−1.0 (−2.5)	−5.0 (−8.0)		
湿度	平均	64 (70)	67 (68)	63 (65)	57 (67)	60 (66)	63 (71)	69 (72)	68 (71)	72 (72)	72 (70)	76 (72)	75 (70)	806 (834)	67 (70)
	低極	30 (30)	34 (25)	10 (10)	12 (10)	10 (10)	20 (20)	30 (30)	39 (22)	39 (15)	40 (18)	42 (27)	40 (30)		
降水量	月	91.7 (76.3)	49.6 (34.4)	97.8 (113.0)	82.6 (197.6)	68.3 (122.9)	150.6 (248.4)	564.3 (305.9)	261.5 (144.7)	281.3 (259.4)	88.4 (114.8)	131.5 (133.4)	100.3 (65.2)	1,967.9 (1,816.0)	164.0 (151.3)
	日平均	3.0 (2.5)	1.8 (1.2)	3.2 (3.6)	2.8 (6.6)	2.2 (4.0)	5.0 (8.3)	18.2 (9.9)	8.4 (4.7)	9.4 (8.6)	2.9 (3.7)	4.4 (4.4)	3.2 (2.1)	64.5 (59.6)	5.5 (5.0)
	日最大	— —	— —	— —	28.6 (63.0)	29.0 (60.2)	36.5 (105.0)	310.0 (310·0)	100.9 (102.2)	115.8 (145.6)	30.0 (89.1)	82.6 (82.6)	— —		
	3時間最大	— —	— —	— —	14.6 (58.4)	20.4 (31.2)	25.8 (59.4)	188.5 (188.5)	56.2 (58.6)	67.8 (87.4)	26.2 (47.4)	30.0 (30.0)	— —		
蒸発量	月	— —	— —	— —	81.3 (59.5)	91.8 (89.3)	75.2 (80.5)	63.2 (62.4)	89.2 (91.0)	50.5 (70.8)	51.3 (59.4)	31.5 (38.6)	— —		
	日最大	— —	— —	— —	6.5 (6.5)	6.5 (7.5)	5.5 (7.5)	7.0 (7.6)	5.0 (6.5)	4.0 (5.0)	3.7 (5.0)	3.0 (4.5)	— —		

（　）内はそれぞれ平均値および極値を示す。気温・湿度・降水量は，昭和39・40・42・43年の値を示し，蒸発量は昭和40・42・43年の値を示す。